

# ハイライトよねやま

(財)ロータリー米山記念奨学会

2001年6月14日発行

## 米山記念奨学会 専門委員会の報告

6月20日に開催される今年度第2回理事会・評議員会に向けて学務・財務・広報の各専門委員会が開かれました。

2002年4月から開始される大学推薦制度の最終案のとりまとめ、寄付金減少への対応、米山奨学事業の使命・目的の再確認、奨学金、応募資格の見直し。そして新しい課題などをロータリアン一人ひとりに伝えていく広報活動などがその中心的課題であります。

### 1. 学務委員会 - 学務委員長 坂部慶夫(京都洛中RC)

a) 2002学年度米山奨学生採用数1,000名の各奨学金別の採用枠が決定されました。内訳は、以下のとおりです。

1. 米山(YU・YM・YD)奨学生	923名	
2. クラブ米山(CY)奨学生	45名	
3. SY-1奨学生	12名	
4. SY-A奨学生	10名	
5. SY-S奨学生	10名	合計 1,000名

b) 2002学年度米山(YU・YM・YD)奨学生の地区別採用数が試算されました。地区別採用(割当)数は、地区の所在する大学の有資格者数(2001年4月調査)と地区別個人平均寄付額(1999年度報告)が基準となります。

2002学年度の場合、採用枠923名の40%を地区内有資格者数の対全国比率で割り当て、60%を地区内個人平均寄付額の対全国比率で割り当て、両者の合計数が各地区の採用数となります。地区別米山(YU・YM・YD)奨学生採用数は、2001年6月20日開催の理事会・評議員会で承認された後に、各地区に報告されます。

c) 「米山奨学事業 制度改編(案)」の作成が終了しました。当改編案は、2002年4月から始まる大学推薦制度(第二期)に向けて、1999年3月から常務理事会、学務委員会にて重ねられてきた協議をまとめたものです。

改編の意図は米山奨学金の目的を確認し、今後米山奨学事業が照準を当てていくべき具体的な目標を定めることにあります。改編案は以下の構成をとっています。

米山奨学事業の目的・理念の確認

大学推薦制度をはじめとした応募資格、募集選考方法の改訂案

今後の課題 渡日前採用奨学金やロータリー財団との連携による奨学金制度など新しい制度への取り組み

## 2. 財務委員会 - 財務委員長 中原勇治 (留辺菘RC)

- a) 2001年度予算案を策定しました。普通寄付金の下げ止まり感を受け、寄付金収入の予算は2000年度とほぼ同額の18億円としました。特別積立金の取り崩しは1億5千万円で計上します。奨学金支出の予算は、奨学生数100名減により対前年度予算比で1億円減の17億5千万円としました。奨学金以外の事業費と事務管理費は、さらなる削減を関係専門委員会と協議して検討していきます。
- b) 地区・クラブへの補助費の改訂について検討し、下記のとおり決定しました。
- ・研修旅行補助費と選考試験補助費は減額とし、学位取得祝金と地区委員長事務補助費は学務委員会提案のとおり廃止とします。
  - ・地区奨学生生活費(現行年額50,000円)は、年額25,000円に減額とします。
- 上記の各補助費改訂は、新制度の改編と併せて2002年度から実施されます。
- c) 財団法人米山記念奨学会の基本財産は国債で運用されています。特別積立財産は、新発国債、社債(AA以上)、定期預金で運用し、安全性と収益性確保に努めています。

## 3. 広報委員会 - 広報委員長 半田昭雄 (浦和北RC)

- a) 2001年度は、ロータリアン向けおよび留学生全般向けの印刷物の改編を行います。各地区のガバナー・エレクトやクラブ米山委員の研修会・セミナー用として作成している「ワークブック」の内容を見直し、改編します。また、全会員を対象としたリーフレット「よねやまインフォメーション」と、全クラブに配布している「米山奨学会への寄付 - ご案内 - 」を一つにまとめて刊行します。
- b) 現在制作中の米山奨学会広報ビデオについて協議しました。ビデオのタイトルは「“よねやま”との<sup>きずな</sup>絆」、頒布価格は送料込み1,000円に決定しました。2001年8月15日完成予定で、米山月間用の資料とともに申込書を全クラブに配布します。
- c) 「ロータリーの友・よねやまだより」の編集方針を決定しました。2001年10月の米山特集号では、米山学友と日本から海外へ留学した財団学友の座談会を掲載する予定です。

以上

(財)ロータリー米山記念奨学会  
〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-3 abc会館ビル8階  
Tel : 03-3434-8681 Fax : 03-3578-8281